

令和5年度 徳島県立小松島高等学校 学校評価 総括評価表

*「評定」の基準 A：十分達成できた、B：概ね達成できた、C：達成できなかった

自 己 評 価						評 価	次年度への課題と 今後の改善方策	
本校のグランドデザイン	本年度の重点課題	担当	番号	具体的目標	評価指標と活動計画			
1 自分とむきあう力の育成 ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する	①主体的・対話的で深い学びの実現 ②キャリア教育の充実 ③生徒主体の活動の充実 ④GIGAスクール構想の推進	企画推進課	①	・新学習指導要領に従い、観点別評価を定着させることにより、主体的・対話的で深い学びを実現させる。	活動計画 ・観点別評価のあり方を教員で共通理解を図り、定期考査の問題や通知表の表記など、新しい評価の仕方を定着させる。 ・全校集会や学年集会において、3観点評価について周知する。	実施状況 ・評点や評定の出し方について、教科内で共通理解を図り、教科間においても再検討を行った。 ・成績一覧表や通知票での表記が定着しつつある。	評定 B 所見 ・教育課程編成委員会等で観点別評価の評価方法について協議した。 ・点票入力のための時間を取った。	・効率よく観点別評価を行える仕組みを確立し、通知表を通じて生徒に伝え、生徒の学びの向上につなげることが課題である。
					評価指標 ・観点別評価に関する設問で理解している割合を70%以上にする。	達成度 ・生徒による「観点別評価による成績について理解ができた」の評価において、ややあてはまるを含めて88.9%であった。		
					活動計画 ・中学3年生を対象とした体験入学を実施し、本校生徒による主体的な活動を取り入れる。 ・11月のオープンスクールの広報に努め、公開授業において生徒主体の活動を取り入れる。	実施状況 ・本年度は台風により日程を延期することとなったが、多くの中学生が参加し、本校生徒も授業や部活動において主体的な活動を行った。 ・11月のオープンスクールでは本校生徒が主体的に活動する授業や部活動を見ていただいた。		
2 人とむきあう力の育成 ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・協力して目標を達成する	⑤開かれた学校づくりの推進 ⑥働き方改革の推進		③ ⑤	・各行事で生徒主体の活動を奨励し、保護者や地域の方にその活動を知っていただく。	評価指標 ・体験入学参加生徒数の目標を250名以上とする。実施できない場合は、ホームページ等で学校紹介を行う。 ・オープンスクール来校者の目標を250名以上とする。	達成度 ・体験入学参加中学生数は249名であった。 ・オープンスクール来校者数は144名であった。	評定 B 所見 ・中学生体験入学では、日程が変わったにもかかわらず多くの中学生に来ていただき、概ね好評であった。 ・オープンスクールでは来校者には概ね好評であったが、来校者数は目標を下回った。	・引き続き他校との日程調整を行い、広報に努め、生徒の活動を取り入れ、本校の教育活動の良さを見てもらえるような中学生体験入学やオープンスクールを目指す。
					活動計画 ・PTA総会実施日に授業参観や進路説明会、学級懇談や個人面接を計画し、より多くの保護者に本校の教育方針や教育活動を理解していただく。 ・「松高だより」を発行し、学校活動について保護者に理解していただく。	実施状況 ・集会でのPTA総会を実施し、授業参観や学級懇談等を行った。 ・ホームページを適時更新し、学校活動を案内している。		
3 世界とむきあう力の育成 ・世界のことを知る ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける ・社会貢献への意欲がある			⑤	・保護者の協力を求め、学校と家庭との連携を密にして情報交換を行う。	評価指標 ・12月の保護者アンケートで満足度80%を目指す。 ・役員会を年4回以上行い、情報を積極的に提供する。 ・PTA総会の参加人数を150	達成度 ・保護者アンケートの満足度では、「よく当てはまる」と「やや当てはまる」を合わせて92%であった。 ・本部役員会、役員会合	評定 A 所見 ・「松高だより」の発行を予定どおり実施できた。「松高だより」が本校の教育活動の理解に役立っていると答えた保護者の割合は92.0%であり、本校の教育活動の周知に役立っている。 ・PTA総会と松高祭でのPTA飲料サービスを4年ぶりに行い、PTA活動が活気づいた。	・PTA活動をコロナ禍前の活気ある活動に定着させ、オープンスクールと同様、開かれた学校づくりの推進につなげたい。

<p>1 自分とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する <p>2 人とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・自分の考えを伝える ・協力して目標を達成する <p>3 世界とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のことを知る ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける 	<p>①主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④GIGAスクール構想の推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p>	キャリア支援課	②-1	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じた学力向上策を検討し、きめ細かな進路指導を推進するとともに、将来に向けた進路目標の早期設定を支援する。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松高セミナーや夏季補習、冬季補習を通し、時間を有効活用し自主的に学習に取り組む姿勢を身につける。校内学力テストや校外模擬試験等に意欲的に取り組む。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松高セミナーや夏季・冬季補習では、生徒が主体的に取り組むよう、事前に活動内容を生徒に示した。 	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路決定率を100%とする。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の100%が1つ以上の合格を得ている。(3月15日現在) 	<p>評定</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4年制大学を希望する生徒は、2学年2月及び3学年6月のマーク模試を受験するよう、次年度以降も積極的に促していきたい。 					
					<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立後期試験まで粘り強く取り組む生徒が多い。 										
					<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己管理能力やプランニング能力を鍛え、自ら未来を切り開く能力を身につける。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポート(手帳、Classi)を活用し、体験の記録と見通しや振り返りを行う。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校集会や学年集会時に記録を残すことの重要性について触れ、自分とむきあうことを促した。 	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポート(松高・未来のための手帳、Classi)を活用して受験対策を行った生徒を80%以上にする。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の3年生において、受験対策で手帳やClassiを活用した生徒は78.1%であった。 		<p>評定</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・松高・未来のための手帳の記入及び活用を習慣化することで、自らの学びや成長を客観的に捉え、進路実現に結びつけることを促していきたい。 			
					<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの中で特に役立ったと感じるのは、定期考査範囲の記入や学習時間の記録等であった。 										
					<p>キャリア支援課(図書)</p>	②	<ul style="list-style-type: none"> ・読書への関心を高め、読解力と思考力を養い、広い視野を身につける。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館だよりで幅広い資料を紹介するとともに様々なテーマの企画展示を行う。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館だよりの発行、企画展示とも月1回程度行なった。 		<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館だよりを年10回発行し、企画展示を年間5回以上行う。 		<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館だよりは8回発行。企画展示は9回行った(1月末現在)。 	<p>評定</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの生徒に読書への関心を持ってもらえるよう、図書館だより等、情報発信の仕方を工夫する。 ・様々な教科とも連携しながら、図書館の利用者を増やす対策を行う必要がある。
								<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館だよりや企画展示により、生徒が普段手に取らない分野の本にも興味を示した。 							
			ICT支援課	① ⑤ ④	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの教員にタブレットを活用してもらい、生徒の探究心や主体性を養うことにつなげる。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員を対象に教育クラウドの研修を行う。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員対象の研修は行うことができなかった。 	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育クラウドの授業使用割合について、A:50%以上 B:30%~49% C:30%未満とする。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全員の先生が教育クラウドを授業で活用した。 	<p>評定</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、年間を通じて生徒タブレットのトラブル問題が生じ、授業での活用にはかなりの工夫が必要であった。来年度は回線の安定化や端末の安定を期待したい。 ・教員用の回線は安定しているので電子黒板等の活用は十分できた。 				
						<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの職員会議でホームページの記事の書き方を説明する。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の職員会議でホームページへのアップ方法について説明した。 	<p>評定</p> <p>A</p>							
						<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを随時更新することで、地域の人たちに小松島高校の活動をより知ってもらう。 									

<p>1 自分とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する <p>2 人とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・自分の考えを伝える ・協力して目標を達成する <p>3 世界とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のことを知る ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける ・社会貢献への意欲がある 	<p>①主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④G I G A スクール構想の推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p>	<p>こころとからだの支援課</p>	<p>③-1</p> <p>・基礎的な生活習慣を確立する。</p>	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新回数について、A:160回以上 B:140~159回 C:140回未満とする。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新回数は221回であった。 	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で随時ホームページの更新を行うことができ効果的な発信ができた。 	<p>・引き続き感染症対策についての啓発を行う。</p> <p>・保健厚生委員の活動等を通して生徒全体の啓発活動を充実させる。</p> <p>・来年度、徳島県教育委員会人権教育研究指定2年目に当たる。同和問題についての研修を重ね、教員・生徒ともに意識を高めたい。</p> <p>・自主自律の日に手帳を活用し、振り返りの時間を設けることは有効である。</p>					
				<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主自律の日に自分の生活習慣を振り返る。 ・手洗い、うがいの習慣を継続させる。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日に実施し、頭髪や服装など自分を振り返る機会にしている。 ・保健厚生委員が手洗い、うがいを呼びかけた。 	<p>評価</p> <p>B</p>						
				<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・欠席を前年度より少なくする。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・欠席とも増えた。2学期末時点(令和4年度:遅刻715・欠席1610、令和5年度:遅刻774・欠席1801) 	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校則見直しの提案が生徒から出てきたり、個々の意識改革ができてきた。 ・今年も感染症が猛威を振るった。立ち向かう体力も必要である。 						
				<p>③-2</p> <p>・健やかなこころとからだをつくる。</p>	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権意識を高めるため、人権作文を生徒全員が書くよう指導する。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中の課題として全員に人権作文を課した。 		<p>評価</p> <p>A</p>				
				<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権作文の提出を90%以上にする。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権作文の提出は90%を超えている。 	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権意識については、ホームルーム活動や講演会、人権作文発表会などによって高揚している。 						
				<p>活動創生課</p>	<p>③-1</p> <p>・部活動に加入している生徒一人一人が目標を設定し、活動に取り組むことができる。</p>	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部活動の年間活動計画と目標をもとに、個人目標を設定する。 ・「松高・未来のための手帳」を活用し、月ごとに活動の記録や感想、学んだこと等を記入する。 		<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月の部活動集会後に各部活動が、全体目標と個人目標を設定し、1月に目標の達成度を自己評価し次年度への改善点をまとめた。 ・手帳に大会等の成績や感想等を記入するよう働きかけた。 	<p>評価</p> <p>B</p>	<p>・手帳の部活動の記録のページを生徒が記入しやすい様式に改善し、活用への啓発を図りたい。</p>		
						<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価アンケートで「充実した活動ができています」と回答した生徒が70%以上とする。 		<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月の自己評価アンケートで「充実した活動ができています」と回答した生徒が88%であった。 	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動連絡協議会で、目標設定の意義を説明し、各部員が目標達成を意識して部活動に取り組んだ。 ・手帳の活用については、個人差が大きかった。 			
						<p>③-2</p> <p>・生徒会役員一人一人が目標を設定し、活動に取り組むことができる。</p>		<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会で活動計画と役割分担を決め、一人一人が個人目標を設定する。 ・毎週木曜日に活動の振り返りと次の活動の準備を行う。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員選挙後、役員一人一人が個人目標を設定し、9月と1月に自己評価を行った。 ・部活動との兼ね合いで、金曜日を活動日とし、行事等の準備や役割分担を行った。 		<p>評価</p> <p>B</p>	<p>・生徒会役員がタブレットを活用して生徒の意見を収集したり、学校行事の案内や生徒会からの情報を発信したりできるようにサポートしていく。</p>
						<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価アンケートで「充 		<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価アンケートで 	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面での学校行事ができるようになり、生徒会役員が関わることができる場面が多くなった。 			

<p>1 自分とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する <p>2 人とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・自分の考えを伝える ・協力して目標を達成する <p>3 世界とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のことを知る ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける ・社会貢献への意欲がある 	<p>①主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④GIGAスクール構想の推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p>		<p>実した活動ができてい ると回答した生徒が70%以上とする。</p>	<p>「充実した活動ができてい ると回答した役員は100%であった。</p>		
	<p>③-3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とくしまGXスクールの活動を通して、SDGsにつながる校内校外の生活環境を整える。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ホームルームで環境目標を設定し、教室に掲示する。 ・毎日の清掃と資源ごみの分別を徹底する。 ・校外の清掃奉仕や、松原の育樹ボランティアに積極的に取り組み、SDGsにつながるアクションを起こす。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とくしまGXスクールの継続認定を受ける。 ・松高ルーブリック評価で「世界とむきあう」項目レベル1以上の生徒80%以上とする。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ホームルームで環境目標を設定し、教室に掲示する。 ・毎日の清掃と資源ごみの分別に取り組み、松原の育樹ボランティアに積極的に参加できた。 <p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とくしまGXスクールの継続認定を受けた。 ・松高ルーブリック評価で「世界とむきあう」項目レベル1以上の生徒が91%であった。 	<p>評価</p> <p>B</p> <p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsにつながるアクションを起こして、世界とむきあう取組だが、大きな軌跡を残すことは難しい。 ・本校のこれまでの取組を広げて地道に取り組んでいる。 	<p>・脱酸素社会の実現に向けて、一歩ずつ取り組んでいるが、本校でできることを、生徒が主体的に考え、アクションを起こしていけたらと考える。</p>	
	<p>③</p> <p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小松島松原の育樹活動や地域のボランティア活動への参加を通して、社会貢献への意欲を持った生徒を増やす。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会やホームルーム活動でボランティア活動の意義や認証登録について説明する。 ・ボランティア推進委員が中心となって、ボランティアの案内と参加者を募る。 ・「松高・未来のための手帳」を活用し、活動ごとに内容や感想、学んだこと等を記入する。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松原の育樹活動を5回以上実施する。 ・ボランティアの参加者を全校生徒の60%以上とする。 ・小松島市ボランティア活動貢献学生認証登録者を80人以上とする。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会やホームルーム活動の他、ボランティア参加希望者を集め、活動の意義や心構えなどを説明した。 ・ボランティア推進委員は、参加の呼びかけや当日の出欠確認を行った。 ・「松高・未来のための手帳」に活動記録を記入するよう働きかけた。 <p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松原の育樹活動を6回実施した。 ・全校生徒の80%が何らかのボランティアに参加した。 ・小松島市ボランティア活動貢献学生認証登録者は105名であった。 	<p>評価</p> <p>B</p> <p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松原の育樹活動は、天候にも恵まれ予定通りの回数を実施することができた。 ・新型コロナウイルス感染症が5類となり、校外のボランティア活動への依頼が戻りつつあり、参加する生徒も増えてきた。 	<p>・校外のボランティア活動が増えてくることで、参加者の出席や活動状況を把握する方法や教員の引率等について検討する。</p>	
<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習を通して、さまざまな災害に対応し、行動できる力を育成する。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災ホームルーム活動と災害別の避難訓練(うち1回は地域との連携)を実施する。 ・避難訓練後はアンケート(自己評価)を行う。 <p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習(ホームルーム活動や避難訓練など)を3回以上実施する。 ・アンケートの回収率を80%以上とする。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災ホームルーム活動と災害別の避難訓練(うち1回は南小松島幼稚園、光保育園、社会福祉協議会と連携)を実施した。 ・避難訓練後はアンケートを実施した。 <p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習を3回以上実施した。 ・アンケート回収率は84%で、各自真剣に危機管理について考えていた。 	<p>評価</p> <p>B</p> <p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した避難訓練が定着してきた。 ・今年度は、地域からも要請があり、防災クラブ委員が校外で2回活動した。 	<p>・災害への危機感は年々増してきているが、実際に際したら現行の訓練通りにいかないことが多々あると感じる。また、避難所となったときのための訓練ができていない。</p> <p>・次年度は、火災と地震・津波に加えて高潮・浸水についても訓練するよう、小松島市震災対策課より指導があったので取り組みたい。</p>		

<p>1 自分とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する <p>2 人とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・自分の考えを伝える ・協力して目標を達成する <p>3 世界とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のことを知る ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける ・社会貢献への意欲がある 	<p>①主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④GIGAスクール構想の推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p>	国語科	①	・スタディサポートのBゾーン以上生徒数の維持、増加を図る。	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業、セミナーによって基本的な学力を定着を図るとともに、生徒の主体性を引き出す授業実践を行う。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1、2年セミナー、1年生徒授業の実施。 	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタディサポート1回目と2回目との比較による。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年(109人→60人)、2年(50人→40人)であった。 	<p>評定</p> <p>C</p>	<p>・1年の夏休み中の学習意欲の維持や喚起の工夫が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー選択者の増加や見通しを立てた学習計画をさせるなど、次年度に向けて取り組みたい。
		地歴・公民科	①	・課題への取組を通じて、学んだ内容をさらに深めるとともに、自分の考えを表現する力を身につける。	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に内容に即した課題を出し、自分の考えを他者に伝える活動を実施する。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に内容に即した課題を出したり、グループワークなど自分の考えを他者に伝える活動を実施した。 	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート等を活用し、「知識・理解」「学び合う力」の項目について、できている割合を80%以上とする。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「できている」とした生徒は77%であった。 	<p>評定</p> <p>B</p>	
		数学科	① ③	・生徒が振り返って、授業を通して自分の考えを伝えることができた実感できる授業を実践する。	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業で、定期的に他者に伝える場面を取り入れるとともに、数学課題レポートコンクールを実施する。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習や生徒授業、ジグソー学習を実践し、他者に伝える場面を多く取り入れることができた。 ・数学レポートを文化祭で展示し、オーディエンス審査を行い、表彰式も実施した。 	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートで、「自分の考えを伝える」ができた割合を60%以上にする。数学課題レポートの提出率を80%以上にする。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを伝えることができた生徒は91%であった。 ・数学課題レポート提出は88.6%であった。 	<p>評定</p> <p>A</p>	<p>・生徒がやってみようと思えるような、自分の考えを伝える方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用をすることで、生徒が取り組みやすい課題、教員が評価しやすい課題について考える。
		理科	①-1 ③-1 ④	・教育クラウド(Classi、Word、Excel、Powerpoint、MetaMoJi Classroom)を活用して授業でレポートを作成できる。	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを用いてICTを活用した授業を行う。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Classiの小テストを提出させたり、PPTを用いた発表原稿を作成させClassiを通じて提出させたりした。 	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットでレポートを提出させる回数について、各科目 A:2回、B:1回、C:0回とする。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目で2回以上のレポートを提出させることができた。 	<p>評定</p> <p>A</p>	
			①-2 ③-2	・実験、実習、観察等を通して表現力を育成する。	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目で、実験・実習・観察等を行い、結果や考察に他者に伝える活動を取り 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間ではグループワークやペアによる教え合いを増やした。また、 	<p>評定</p> <p>A</p>	<p>・「人とむきあう力」の項目では80%以上を達成できたが、「自分とむきあう力」、「世界とむきあう力」のレベル2到達度は70%前後であった。本年度の取</p>		

<p>1 自分とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する <p>2 人とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・自分の考えを伝える ・協力して目標を達成する <p>3 世界とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のことを知る ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける ・社会貢献への意欲がある 	<p>①主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④GIGAスクール構想の推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p>				<p>入れる。</p>	<p>テーマについてPPTでまとめ、個人で発表させる活動も行った。</p>	<p>組を継続しつつ、これらの力も伸ばすことが次年度の課題である。実験・観察を充実させたり、科学的な視点で身の回りの現象から世界での出来事について考える時間を設けたりすることで向上させていきたい。</p>								
					<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科の松高ルーブリックにおける評価アンケートの「人とむきあう力」の項目でレベル2到達の割合について、A:80%以上、B:50～79%、C:49%以下とする。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科の松高ルーブリックにおける評価アンケートの「人とむきあう力」の項目でレベル2到達の割合は86%だった。 		<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標を達成することができた。レベル1の生徒も一定数いるので、引き続き取り組みたい。 							
					<p>保健体育科</p>	<p>①-1</p>		<p>・【保健】健康や安全について自分の考えをまとめ、自他の生活や社会を改善できる力を身につける。</p>	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目ごとに演習課題を設定し、自分の考えをまとめる。 ・学期末に演習課題から一つを選んで発表等を行う。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目ごとに演習課題を設定し、自分の考えをまとめ、ノートに記入した。 ・全学期末に演習課題から一つを選んで発表(口頭もしくは文章)を行った。3学期には生徒授業を計画している。 	<p>評定</p> <p>B</p>	<p>・引き続き、自分の考えをまとめ、文章や言葉等で分かりやすく相手に伝えることのできる生徒を育てたい。</p>			
									<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートの「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の項目について、できている割合を80%以上とする。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートの各項目について、「よくできた」「できた」の割合が90%以上であった。 	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習課題を発展させる形で、考査問題においても論述問題を設定した。 ・実施時期や方法、評価の仕方について教科会で共通理解を図り、取り組むことができた。 				
									<p>①-2 ③</p>	<p>・【体育】仲間と連携して、練習やゲームなどを展開することができる力を身につける。</p>	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術向上のポイントや、ゲームの進め方を細かく指導するとともに審判法や競技の特性など、各種目への興味を高める指導を行う。 		<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板や教具を使って視覚的に理解しやすい指導を行った。また、教員からの言葉かけを少なくし、生徒が自発的に審判できるように促した。 	<p>評定</p> <p>B</p>	<p>・引き続き、様々な場面を設定して目標を達成していくことで、心身の健康を保持増進できる生徒を育てていきたい。</p>
											<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートの「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の項目について、できている割合を80%以上とする。 		<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートの各項目について、「よくできた」「できた」の割合が90%以上であった。 	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科会で教員同士が指導方法等についてアドバイスし合ったり、指導の様子を見たりして、生徒に応じた適切な指導ができるように心掛けた。 ・リーダーとなる生徒を中心に、生徒同士が練習やゲームについて話し合える時間を持った。 	
<p>芸術科</p>	<p>①</p>	<p>・生徒の「生涯にわたり芸術を愛好する心情」を育み、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する授業を実践する。</p>	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に興味・関心を持たせる教材を精選し、意欲的に表現活動ができるようにする。 ・理解を高めるためにコンテンツを用いたり、模範を示して、毎時指導方法を工夫する。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の精選をし、意欲的に表現活動ができるように努めた。 ・コンテンツを用いて工夫したり、模範を示して、指導方法を工夫した。 	<p>評定</p> <p>B</p>	<p>・授業の目標や目当てを明確にし、生徒がより興味・関心を持って意欲的に活動できるようにする。</p> <p>・生徒が達成感や今後の展望が持てるよう、振り返りシートの内容を工夫する。</p>									
			<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートで、音美書の各ルーブリック評価レベル1以上の生徒を80%以上 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートを実施し、「自分とむきあう」レベル2以上が87%、「人とむ 	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音美書それぞれに、指導者が芸術に向かう情熱を示し、教材を精選することで生徒が意欲的に表現活動を行うことができた。 ・到達度に個人差が大きく、指示待ちになる場合もあったが、振り返りを実践すること 										

<p>1 自分とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する <p>2 人とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・自分の考えを伝える ・協力して目標を達成する <p>3 世界とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のことを知る ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける ・社会貢献への意欲がある 	<p>①主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④GIGAスクール構想の推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p>			とする。	きあう」レベル2以上80%、「世界とむきあう」レベル2以上60%だった。	で、自分とむきあい、学力や技術の向上を実感できた生徒が増えた。		
		英語科	①	<ul style="list-style-type: none"> ・英語科会において、生徒の目標設定に役立つパフォーマンステストと評価の研究を行い、生徒の粘り強い学習を促すような指導と評価の一体化をめざす。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンステストの振り返りレポートを学期に1回実施する。 ・パフォーマンステスト計画を作成し、評価内容を英語科会で共有する。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回パフォーマンステストを実施した。パフォーマンステスト計画を作成した。各学年で評価内容を共有した。 	<p>評価</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大半の生徒がパフォーマンステストの目的を理解し、各自の目標設定を行って、積極的に取り組み、フィードバックによって学びへの意欲を高めることができた。 ・本校の英語科が育成を目指す資質能力を記述したCanDoリストの目標設定を充実させ、生徒の英語学習の指針となるようなものにした。その指針にそって、指導計画を作成し、各学年のパフォーマンステストを計画・実施したい。
					<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りレポートで、「パフォーマンステストにおいて、目的・状況・場面にに応じて相手に伝えようとした」と答えた生徒を80%以上にする。 ・英語科でパフォーマンステスト計画を作成し、英語科会で評価内容を共有する。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りレポートで、「パフォーマンステストにおいて、目的状況場面にに応じて相手に伝えようとした」と答えた生徒が98%以上であった。各学年で評価内容について共有できた。 	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りで、パフォーマンステストで生徒自身が設定した目標について、「達成できた」と答えた生徒は60.8%にとどまっているので、生徒が目標に向けて学習したり、練習したりするための支援を考えていきたい。各学年で評価内容について共有できたが、教科会においてさらに共有する機会を持ちたい。 	
		家庭科	①	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組む態度を育成する授業を実践する。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実生活に役立つ基礎的な内容を精選し、体験的に学ぶ授業を積極的に取り入れる。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実生活に役立つ基礎的な内容を精選し、体験的に学ぶ授業を積極的に取り入れた。 	<p>評価</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も体験的に学ぶ授業を工夫して実践していきたい。
					<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業での学びを家庭生活に活かすことができる生徒」の割合を90%以上にする。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成度は80%であった。 	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分野の学びを自分の生活に生かせるような教材の工夫をしたい。 	
			②	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者教育で生徒理解度を高める授業を実践する。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会への扉」の教材を利用して生徒の理解を高める。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会への扉」の教材を利用して生徒の理解を高めた。 	<p>評価</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者暮らし安全局消費者暮らし政策課の資料や、悪徳商法の動画を通して生徒の理解を深めるようにしたい。
					<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者教育で生徒理解度を90%以上にする。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解度は80%であった。 	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者が消費者被害にあわないために自分のこととしてとらえるようにしたい。 	
		情報科	①-	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容が実社会の生活で役に立つと実感できる授業を実践する。 ・生徒が授業を通して「世界とむきあうことができた」と実感できる授業を実践する。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りや実生活に深く根ざした内容を積極的に活用し、周囲と協働して体験的に学ぶ授業をより多く行う。 ・定期的な振り返りを行う。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Word、Excel、PowerPointなど必要なスキルを社会との関連を示しながら指導した。 ・ワークの「やってみよう(知識の応用)」を用いて深く考えさせたり、話し合わせたりした。 ・年間4回振り返りを実施した(次回は3月上旬に実施予定)。 	<p>評価</p> <p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界とむきあえた」と生徒が実感するには授業の中で知識を実生活とつなげる活動の他に、問題解決型の授業をより多く取り入れる必要がある。そのために指導内容の精選などにより、その形の授業を行う時間の確保を行っていく。 ・本校において授業を進める中では生徒が情報を扱う際の情報モラル面や知識の伝達の必要性を常々大切にしている。しかし、教科「情報I」ではその側面も大切にしながら、生徒が「世界とむきあう」意識を高めてやる授業の工夫が必要である。そのため、次年度はさらなる教科会の充実を図っていく。
					<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書検定の年間受検者数を30人以上にする。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書検定年間受検者数は22人であった。 	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から情報の教科名が「情報I」となり指導内容の教科色が強まり、資格を得ようとする意識を高めるまで指導が至らなかった。 ・教科書の「やってみよう」は世界(社会)とつながる内容だが、身の回りのことを話し合うことが多いため、生徒たちは人や自分とむきあうと感 	

<p>1 自分とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する <p>2 人とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・自分の考えを伝える ・協力して目標を達成する 	<p>①主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④GIGAスクール構想の推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートの「世界とむきあう」の項目についてレベル3と答える生徒の割合を60%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界と向き合う」の項目のレベル3以上の割合は約30%であった。 	<p>じる傾向があった。</p>			
		①-2 ③	<ul style="list-style-type: none"> ・情報Ⅰにおいて「自分とむきあう」視点で、情報分野における「情報モラル」や「プログラム」など様々な分野で問題解決ができる授業を実践する。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各単元や気づきを多く与える授業構築のための教科会や研修会への参加を充実する。 ・第5章「活動して提案する」をもとに授業構想、実践を行う。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科会10回、研修会(プログラミング)2回実施した。 ・問題解決型学習(発想法、Word、Excel)を3回実施した。 	<p>評価</p> <p>A</p>	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が他者とともに自発的かつ協働的に活動する授業の実施ができたが、より一層の内容の充実が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型学習の内容の検討や反省を意識的に行うことができたが、情報モラル面の指導や基礎知識の徹底を図るあまりに、その内容の充実やより多くの実施につなげることができなかった。また、研修会の内容を授業の形としてまとめあげ実践することがあまりできなかったため、次年度は今年度学習したことが取り入れられるように知識伝達型授業と問題解決型授業のバランスを考えるとともに、より一層の体系化を行っていく。 	
<p>3 世界とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のことを知る <ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける ・社会貢献への意欲がある 		総合的な探究の時間	① ② ③	<ul style="list-style-type: none"> ・探究の見方・考え方を働かせ、生徒の興味・関心に基づく課題について、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を発見し解決していく資質・能力を育成する。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関心のある「問い」を立て、個人・グループにおいて研究し、その成果を発表させる。 ・関心のある分野ごとのゼミに分かれ、各分野の専門家を招き、幅広い教養の習得に結びつける。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動計画通り、実施することができた。 	<p>評価</p> <p>A</p>	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分野の専門家を招いての講演会や、志望理由書講座・模試は、生徒が具体的に将来をイメージすることに役立った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年ごとに、創意工夫のある探究活動を計画し、それぞれの生徒に合った活動を行うことができた。反面、学年を横断しての取り組みが少なく、単年度での実施に留まりそうな計画が目立つ。各学年同士で密に報告をし、次年度に向けて“つながり”を意識した計画を練っていきたい。
		1学年	① ③	<ul style="list-style-type: none"> ・松高ルーブリックレベル1を満たす生徒を育成する。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松高・未来のための手帳の活用の充実。 ・総合的な探究の時間(PK)の充実。 ・HR活動、人権教育、学年集会の充実。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動計画事項はすべて実施できた。 	<p>評価</p> <p>A</p>	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会や学年の活動に手帳を持参し、メモをとる生徒が増加した。メモや感想についても内容の充実が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PKのジクソー活動や面談、点検印や担当教員からのコメントの充実が生徒の活動を後押ししていると考えている。 ・「世界とむきあう」が高度であるため、PK等での実践の工夫が課題である。
2学年	①	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の充実を図る。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手帳に学習時間を記録したり、定期考査前(5回)に学習マラソンを実施したりして、学習時間を記録し振り返る習慣をつけさせる。 ・毎日の生活で手帳の活用が習慣化するよう働きかける。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査前に学習マラソンを実施し、学習時間を記録し振り返る習慣を身につけさせたり、毎日の生活で手帳の活用が習慣化するよう働きかけたりした。 	<p>評価</p> <p>B</p>	<p>所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路意識は少しずつ高まってきた。引き続き進路の選択について、生徒個人が研究できるように指導をしていく。 ・学習習慣が身につけていない生徒に、個々に合った学習方法について継続指導をする。 		

<p>1 自分とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する <p>2 人とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・自分の考えを伝える ・協力して目標を達成する <p>3 世界とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のことを知る ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける ・社会貢献への意欲がある 	<p>①主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④G I G A スクール構想の推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p>			<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間2時間以上の生徒を25%以上、1時間未満の生徒を30%以下とする(4月と9月のスタディサポートで評価)。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間2時間以上の生徒は30.3%、1時間未満は59.9%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価指標の学習時間について、2時間以上の生徒数は上回ったが、1時間未満の生徒数は下回った。 		
		⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象進路説明会を実施する。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での生徒の状況や進路実現に向けての進学・就職に関する情報提供を行う。必要に応じて個人面談も実施する。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月2日に開催。生徒の状況報告や進路実現に向けての進学・就職の情報提供を行った。 	<p>評価</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対面での実施に加え、オンラインでの参加も可とし、当日録画したものを後日視聴できるようにもしたが、参加者数は思ったほど伸びなかった。 ・次年度に向けては、より参加しやすい開催方法を工夫したい。 	
				<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象進路説明会の出席者数を80名以上とする。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の参加者は、オンラインの出席者も合わせて78名であった。 	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標を達成できなかった。 		
		3学年	①-1 ③-1	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体性を活かす取り組みをする。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の生の声を記事にして3年生新聞を発行する。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回テーマに対し生徒個人の思いを形にした。 	<p>評価</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個人の思いを知ることができ好評であった。
				<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生新聞を年間6回発行する。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8回発行した。 	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通りの取り組みができた。 		
			② ③-2	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に目標や実行プランを明確にし、自己反省・自己管理を行う中で、自らの進路の実現を目指す。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標設定や実行プラン等を松高・未来のための手帳に記録し、具体的に実現までの道筋を考えさせる。 ・日々の記録や目標に向けての進捗状況などを面接等で手帳を介して確認し、生徒の実態を分析する。 ・手帳に学習時間を記録したり、定期考査前(5回)に学習マラソンを実施したりして、学習時間を記録し振り返る習慣をつけさせる。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の設定や、具体的なスケジュール管理等で活用するよう働きかけた。 ・学習時間の記録や管理、学習マラソンへの取組で一定の活用があった。 	<p>評価</p> <p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手帳の活用は年度当初に比べ後半になるほど高まったが、聞いたことをまとめて書く事への抵抗感が見られた。生徒は必要な情報を大雑把に画像で保存し、使用方法を多用している。手帳を活用する良さやよい事例を紹介し、必要とする情報のまとめ方や使い方の利便性を伝える。
				<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松高・未来のための手帳を活用し自己管理や学びの整理に利用した生徒の割合を70%以上にする。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的に手帳が活用できた生徒の割合は65.5%であった。 	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手帳を活用する頻度は高まっているが、評価指標を達成するまでは至らなかった。 		
			①-2	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象進路説明会を実施する。 	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象進路説明会では、生徒の状況報告や、進路実現に向けての進学・就職に関する情報提供を行う。また、必要に応じて個人懇談を実施する。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象進路説明会を5月13日に実施した。進学・就職別に同時開催し、生徒の状況や進路に関する情報を提供した。 	<p>評価</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が求める進路情報をできるだけ多く提供できるように事前に計画する必要がある。
				<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象進路説明会の参加目標数を80名以上とする。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学・就職あわせて112名の参加があった。 	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面形式の説明会を実施した。進路に対する保護者の関心の高さを改めて感じた。 		

<p>1 自分とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知る ・自分の目標を持つ ・自分がやる、自分でやる ・自分をコントロールする ・昨日の自分より前進する <p>2 人とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と真剣に話す ・相手の立場で考える ・相手のことを認める ・自分の考えを伝える ・協力して目標を達成する <p>3 世界とむきあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のことを知る ・地域のことを知る ・情報を適切に活用できる ・世界・地域の課題を見つける ・社会貢献への意欲がある 	<p>①主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④G I G Aスクール構想の推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p>	管理職	⑤	<p>・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）からの提言や提案を参考に、地域と連携した教育活動の更なる充実を図る。</p>	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を年3回開催し、地域と連携した教育活動の実現に向け協議する。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を2回開催した。3回目は3月中旬に開催予定である。 	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した教育活動（ボランティア活動や防災避難訓練など）を拡充できたか。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した活動として、ボランティア活動を1回、防災避難訓練を1回、昨年度よりも規模を拡充して行った。 	<p>評定</p> <p>A</p>	<p>・コミュニティ・スクールにおいて委員の方々からいただいた意見・提言を来年度に向けてできる限り実現できるよう検討していく。（例えば松原育樹ボランティア活動について清掃以外の分野の専門家を招いて草花についての知識を深めるなど。）</p>
				<p>・働き方改革を推進する。</p>	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤システムを活用し、超過勤務月80時間以上の教職員に対して面談を行い、改善を図る。 ・校務分掌の適切な配置や業務内容の精選を行い、教職員の負担を軽減する。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤システムを活用し、超過勤務月80時間以上の教職員に対して面談や声かけを行った。 ・部活動適正化推進委員会で適切な休業日等の設定について確認した。また、業務内容の精選を行うとともに適切な配置になるよう希望、資質、適性等を配慮した。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務月80時間以上の教職員の割合が10%以下だったのは7、8月のみ。 ・「業務の効率化や業務改善に取り組んでいる」の肯定的評価は79%であった。 	<p>評定</p> <p>B</p>	<p>・働き方改革の推進は、喫緊の課題ではあるが、学校独自の取組だけでは限界もある。県教委や行政機関などと連携を取り、情報収集に努めるとともに、引き続き業務内容の精選や業務全体の適切な配置を行っていかねばならない。また、ICT環境のより一層の整備や新しいクラウドサービスの導入によって、学習指導や進路指導の充実を図り、教員の負担を軽減することで働き方改革に繋げていく。</p>	
			<p>・部活動組織の整備をする。</p>	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の状況を定期的に調査し、部員数や活動状況に応じて、休部勧告等も含めた適正な整備を行う。 	<p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動適正化推進委員会で部活動に係る活動方針を改めた。活動計画・活動実績は毎月作成している。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動適正化推進委員会で活動の質の更なる向上を図った。 	<p>評定</p> <p>B</p>	<p>・部活動については、適切な休業日の設定や複数顧問制の拡充などの環境づくりを引き続き行っていく必要がある。</p>		
				<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果に基づく整備の有無による。 	<p>達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動適正化推進委員会で活動の質の更なる向上を図った。 	<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動適正化に向けた取組を一層推進する必要がある。 				

学校関係者評価

令和6年 月 日()に開催された、第3回小松島高等学校学校運営協議会において、今年度の学校評価総括評価表について協議され、次の提言を頂いた。

校正基準 半角：% 数字 項目番号 ()括弧 アルファベット 全角：評定ABCのみ